





# 身近で手軽なパチンコにおける依存問題を回避して 介護予防も含めた形の健康増進的役割を追求すべき

篠原教授はパチンコ・パチスロが持つ認知機能低下予防効果を介護の現場にもたらす有用性を示唆するものとして、本企画0027号で取り上げた広島でホール展開をするプロパグループ主導で行われた『カジノデザイナー』を紹介。さらには0033号で取り上げた日本電動式遊技機工業協同組合(日電協)と回胴式遊技機商業協同組合(回胴遊協)とによる「パチスロ機遊技による脳活動の実証調査説明会」の現状報告がなされた(こちらの調査結果報告は次号0037号にて紹介予定)。

篠原教授は「レジャーの持つ認知機能低下予防効果を考えれば、介護現場でのリハビリテーションは楽しくなくてはならない。そこに楽しさを長年追求してきたアミューズメント産業が、超高齢化社会を迎えるにあたってコラボレーションしていくのは当然の流れとしてあるべきで、パチンコホールを高齢化社会に不可欠なリソース

資源にしていくことが重要となる」とし、さらにはホスピタリティを高めるトレーニングを行って

きているホールスタッフは介護現場でも通用するほどのスキルを持つていることから、パチンコホールと介護施設を併設して同じスタッフが対応するといったホールスタッフのリソース化にも言及した。

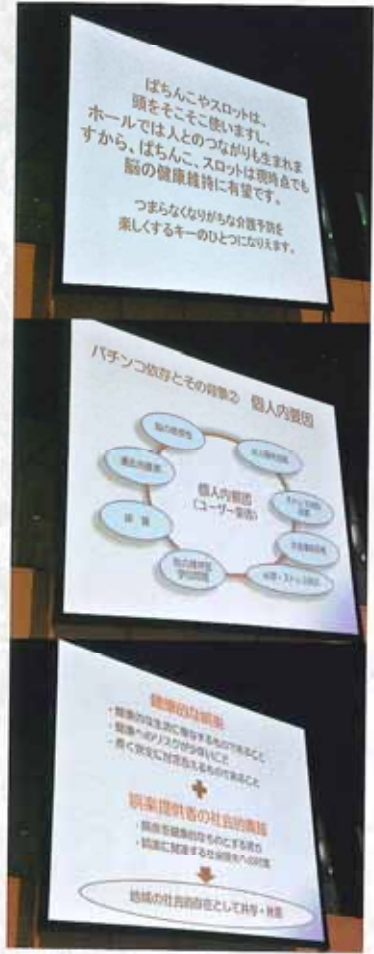
対して深谷氏は「例えば商店街の中にあつて地域と密着していたパチンコホールは、篠原先生が言うところの認知機能低下予防になるコミュニケーションを提供する場を担ってきた時代がありました。そうした形をもう一度再構築することが高齢化社会におけるパチンコ産業の存在意義のひとつになる気がします」と加えた。

そのような健全な娯楽の実現を考えたとき、やはり避けては通れないのが依存問題である。

西村先生は「公営ギャンブルが廃れていた背景として、依存問題は個人の責任であるというスタ

ンスをとり続けてリスクマネジメントをしてこなかったことが挙げられる」と述べ、パチンコの依存問題の要因として個人内要因は当然ある。遺伝的要素も色濃い。ただしそれだけではなくて商業的要因、環境要因との組み合わせで起こる問題であると指摘する。

「射幸心を過度に刺激するなどのパチンコの商業的な演出が依存性を高めていることは否めません。毎日参加できることなどアクセスのしやすさも依存のリスクとなっています。依存問題はパチンコホールの商業的な演出と個人の要因の組み合わせで生じます。それは、パチンコを無くしさえすればいいのか? ストレスの解消、PTSDの回避、孤独や孤立の緩和など、パチンコの良い部分が必要とし、享受している利用者はたくさんいます。ただ、精神的な辛さや心が疲れた人ほどのめり込みやすいこともまた事実です。お客さんにとっても、お店にとっても健



▲「依存問題の背景にあるのは『自尊心の低さ』だと西村先生。自尊心の低い店員と客が出会って健康にはならない。スタッフの意識改革が急務だ。



▲篠原先生は本企画も引き合いに出し、「ファン雑誌でも健康化をうたうのが当然となるのが良いこと」と述べた

ばちんこ店を高年齢化社会に不可欠なリソース(資源)にする。ホールスタッフを高年齢化社会のリソースにする。その気合で未来を作りましょう。

康的に長く付き合うことができる商業的な演出とは何かを考えていく必要があると思います。どのような努力をしても、依存のリスクを完全に無くすことはできません。無くてないリスクを如何に抑え、ユーザーや地域の人たちとのように共存していくのが今パチンコホール、そして遊技業界に問われていると思います。パチンコの功罪両方に目を向け、マネジメントが依存問題回避に不可欠であり、それがパチンコ産業の健全化につながるのである。



### 「中腰で台選び」健康術

台選びで釘を見るときは腰を曲げるのではなく、膝を曲げて中腰姿勢でカニ歩きするように見なければ脚の筋肉が鍛えられる。「お尻をうしろへ少し突き出し、膝がつま先よりも前に出ない姿勢を維持すれば下肢筋力アップの期待大です」(根本賢一先生)。「筋トレは脳トレにつながります。中腰で大腿四頭筋を鍛えましょう」(篠原教授)。